

平成 29 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

平成 30 年 4 月 1 日現在

研究課題名	タタルスタン共和国による在外タタールの文化振興：ロシアの文化外交との関連から	
申請者	氏名	所属機関・職
	櫻間 瑛	日本学術振興会・特別研究員 PD

研究成果の概要

本研究課題は、今年度から本格的に取り組み始めたものであり、現在は基本的な情報を整理する段階にある。本研究の主眼は、ロシア連邦内の一民族共和国である、タタルスタン共和国によるタタール人同胞への文化振興支援が、ロシア国家としての外交政策と相互にどのような関係を持っているのかを明らかにすることにある。この目的に鑑み、スラブ・ユーラシア研究センターにおける調査においては、まずロシア外務省発行関連雑誌等を中心に、文化外交についての概要を把握することに努めた。これらの資料においては、文化外交の一環としてロシア語の振興に関する様々な施策が紹介されている。一方、少数民族および連邦構成主体の活動に関する記述は確認できなかった。もっとも、現段階でもこの文化外交とタタルスタンによる文化振興活動のいくつかの類似点は確認できる。

この調査と並行して、本研究はまだ端緒についたところであり、関連する先行研究の蒐集にも務めた。特にロシアの文化外交および連邦構成主体の活動に関する、英文・露文の研究文献を集め、現在もその読み進めを行なっている。これまでに確認している限りでは、タタルスタンをはじめとする連邦構成主体の国際的な活動等について、断片的な言及は見られるものの、それと連邦レベルでの外交活動との関連は必ずしも明確にされておらず、改めて今後の研究の余地を確認できた。

現段階では、具体的な成果には至っていないが、今後は更に資料を読み込みつつ、まずは連邦の文化外交の実態について明確にするのが必要である。それを踏まえ、タタルスタンによる具体的なタタール文化振興策が、連邦の文化外交と相互にどのように影響しているのかをより明らかにしていきたい。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

未執筆

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

現在、検討中